

令和5年度第1回一関市地域福祉計画推進会議 会議録

- 1 会議名 令和5年度第1回一関市地域福祉計画推進会議
- 2 開催日時 令和5年8月29日（火）午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市総合福祉センター 3階 大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 都築光一委員、長岡浩一委員、菊地光伸委員、佐々木裕子委員、小岩正樹委員、菅原隆委員、渡部俊幸委員、佐藤昌悦委員、及川たい子委員、菊地ワカ子委員、佐藤清子委員、千葉一男委員、千葉哲夫委員、及川忠委員、橋本温子委員
※欠席者 菅原伸子委員、皆川富雄委員、葛西信昭委員、木村静恵委員、須藤松雄委員
 - (2) 事務局 佐藤和子福祉部長、佐藤和幸長寿社会課長、伊藤歩長寿社会課長補佐兼福祉企画係長
 - (3) その他 地域福祉計画に係る事務事業所管課担当職員
山崎政義まちづくり推進課長補佐兼まちづくり企画係長、佐藤康隆いきがいつくり課市民センター係長、伊東裕芳長寿社会課長補佐兼高齢福祉係長、坂本寿究子福祉課長補佐兼障がい福祉係長、千葉信一防災課長補佐兼住民安全係長、千葉寧学校教育課主幹兼学校教育係長、菅原敏一関市社会福祉協議会事務局次長兼地域福祉課長
※ 設置要綱第7の規定による

5 議 題

- (1) 副会長の選出について
- (2) 第2期一関市地域福祉計画に係る令和4年度実績及び令和5年度計画について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 0人

8 佐藤和子福祉部長挨拶

令和5年度第1回一関市地域福祉計画推進会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、委員の皆様方におかれましては、何かとご多用の中、また、暑い中、本日の推進会議にご出席を賜り心から御礼申し上げます。

また、日頃から、市の保健福祉行政の推進に格別のご理解とご協力を賜りまして、改めて御礼を申し上げる次第でございます。

さて、地域社会を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進行、地域での交流機会の減少など、社会環境の変化に伴い人と人とのつながりの希薄化が進み、お互いの支え合いや助け合いといった機能が弱くなってきております。加えて、認知症高齢者の増加や8050問題、ヤングケアラーや自死、虐待、引きこもりといった多種多様な課題が浮き彫りとなり、大きな社会問題となっているところです。

このような状況の中、みんなが安心して暮らせるまちづくりを推進するためには、地域社会で支援を求めている人に気づき住民相互で支援を行うなど、地域住民のつながりを再構築し支え合う体制の実現と維持のため、行政はもとより市民や福祉事業者、社会福祉協議会などの関係機関が、それぞれの立場で相互に協力しながら計画的に進めていくことが必要となっております。

市では、保健福祉分野の施策を横断的、体系的に推進するための基本計画と位置づけております第2期一関市地域福祉計画を令和3年3月に策定し、この計画に基づき、地域や事業者の皆様などとの協働による地域福祉を推進するため、この「一関市地域福祉計画推進会議」を設置し、様々な分野の方々からの意見を取り入れながら、計画を推進しているところです。

本日までご出席いただいた委員の皆様には、先ほど申し上げましたような多岐にわたる社会的課題にどのように対応していけばよいかを共にお考えいただき、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見をお願いしたいと存じます。

委員の皆様には、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げ、開催に当たりましてのご挨拶といたします。本日は、よろしく願いいたします。

9 審議内容

(1) 副会長の選出について

事務局から、新たに後任する副会長の選出について諮ったところ、菊地光伸委員を推薦する発言があり、委員から異議はなく承認された。その後、副会長席に移動し就任の挨拶を述べた。

(2) 第2期一関市地域福祉計画に係る令和4年度実績及び令和5年度計画について

事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 資料No.2の3(1)相談体制の充実について、それぞれの役割の行政の欄①に包括的な相談支援体制の構築を推進すると記載がある。社会福祉法上は、包括的支援体制の中の福祉の部分だけをまとめたものを重層的支援体制としている。包括的な相談支援体制の構築の中には重層的支援体制が入っており、一関市の地域

福祉計画の中には、包括的な相談支援体制の中に重層的支援体制があるとみることができるといえる。重層的支援体制を進めるためには、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター、子育て支援センター、生活困窮者自立相談支援窓口の4つを整えることが必要である。

事務局 一関市では、重層的支援体制整備の必要性を認識し理解を深めているところだが、まだ事業を始めていない状況である。参考として、令和4年度までに岩手県内でこの事業を実施している市町村は、盛岡市、遠野市、矢巾町、岩泉町の4か所である。東北では15市町村となっており、実施しているところはまだ少ないのが現状である。実施が難しい理由は、既存の支援体制でカバーできているのではないかということ、重層事業への移行の必要性の判断が難しいこと、実施体制の人員や専門的知識の不足等が早期実施を困難にしていると考えられる。当市だけではなく、各自治体では重層事業に踏み込めていない悩みがあると思われる。当市においては、令和5年度、令和6年度には更なる理解を深めながら重層的支援体制への移行を検討していきたい。

会長 重層的支援体制に取り組むことで、国からは補助金があり、歳入予算の組替えをすることになるかと思われる。取り組んでいるところは、間違いなく公金が増えてくることになるので、歳出入の調整が内部的に必要となる。

委員 災害時の避難行動支援について、令和4年度には避難行動要支援者がこれだけいる中、令和5年度の計画では「避難行動要支援者名簿の更新作業を進める」とあるが具体的にはどのくらい進んだのか。手元にある名簿は、更新されていないように思う。

事務局 避難行動要支援者名簿については、令和5年4月1日現在を基準とした名簿調整をしている。障がい者手帳1・2級を所持している方、難病指定を受けている方などの個人情報をご各部署からデータ提供を受けている途中であり、まだまとめが済んでいない。

会長 災害対策基本法が改正され、在宅避難者対策も市町村で対応するという事になったがどうか。

事務局 消防本部防災課では、在宅者に関しても支援していく必要性から、各自主防災組織や行政区の中に在宅避難の方がいるのであれば、食料支援などを主として支援を行っていくことになっている。

委員 避難行動要支援者名簿は、毎年調査しているのか。自分が所持している名簿は変わらず、亡くなっている対象者や引受人もそのまま前と同じ状態になっている。

事務局 毎年度、関係する部署などから情報を入手している。既に亡くなっている方が、

名簿にまだ載っているという話を何度かいただいている。追加するデータはそろっているが、削除する部分に遺漏がありデータ整備作業の過程で支障が出ている。その部分を上手く整備するための作業手順を検討しているところである。

委員 対象者として承諾を得ているかなどの情報が名簿でしか確認できないので、情報を今後いただきたい。

委員 地域福祉を担う人材育成について、高齢者との交流や施設への訪問ができない状態であり令和5年度の見通しがたたない。現在も継続中ということだが、どのような方向で継続を考えているのか。

事務局 全体の詳しい数字はお答えできないが、取組自体は学校の判断で行われることになる。令和4年度では、新型コロナウイルス感染症の影響や各学校の規制などを受けて取組が難しかった。学校では、新型コロナウイルス感染症流行前に戻すような動きになりつつある。例えば、学校行事や修学旅行も以前に戻すような状態で行事の年間計画も立てられているので、こういった取組についても、可能な範囲で各学校の判断による取組がなされていくと理解している。

委員 高齢者施設での面会は、家族や親類が会いたくても会えない現状が続いている。内容を見直す必要があるのではないか。実態に見合わず、去年と同じ反省になってしまうように思う。公的な施設の活動はしているが、高齢者施設での内容を工夫した提案があればいいと思う。

事務局 福祉教育の推進について、コロナ禍であっても各児童施設での創意工夫により、高齢者や障がい者と交流をしたとのことである。創意工夫の面で訪問出来ない代わりに園児がビデオレターを送る、入場者に手作りのマスコットを配布してもらうなど、実際に訪問は出来なくても出来る交流を工夫している。今年度も様々な計画を立てるので、様々な工夫を駆使して出来ることを探したいと思う。

委員 コロナ禍で特別養護老人ホームでは要介護3認定の利用者が多く、いまだに面会制限がある。今年になって、感染症の流行が少なくなったように感じた時点では、様々な施設が平常に戻りつつ、対面での面会を始めた施設もあった。最近はまだ新型コロナウイルス感染症の感染者が増え、両磐地域でもクラスターが発生して、油断がならない状態になり面会制限が始まっている。以前は、中学生、高校生、専門学校の生徒実習を積極的に受け入れて、利用者の楽しみにもなっていたが、ここ2、3年はコロナ禍で一切断っている状態である。ただし、施設において敬老会などでは、子ども達が踊ってくれたりした楽しみもあった。ビデオによる子ども達の合唱などの活動は利用者も喜んでいる。令和5年度も現状では受入れは難しいと思うが、それ以外での交流を考えていけばいいと思う。

- 委員 昨年から一関管内などの実習生の受け入れは、様子を見ながら再開している。最近では感染症拡大ということで受け入れは停滞してきているが、通所施設ということもあり、地域との交流も考えていきたいと思う。
- 委員 高齢者施設などで、新型コロナウイルス感染症拡大前に1度だけではあるが、3歳から高校生までの子ども達が歌や踊りを披露した。子ども達も高齢者の手を握ったりプレゼントを渡したりと、お互いにいい関係を持つことが出来た。新型コロナウイルス感染症の流行が明けたら、ライオンズクラブには毎年来てもらい、また遠方からの訪問など、感染症拡大の緊張を解きつつ様々な機会でもっていききたいと思う。
- 委員 資料No.2の2から3頁について、令和4年の実績と令和5年の計画の内容に違いがあまりなく同じ表現になっている。もう少し具体的な説明をしてほしい。
- 委員 要望として、配布資料は1週間前までに配布してほしい。事前にもらえれば、建設的な意見も色々出てくると思う。
- 委員 資料No.1(3)地域福祉を担う人材の育成と次世代の参加促進【学校教育】について、総合的な学習の時間が学校では設けられているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の人たちがなかなか一緒になってやっていくことがなかったと思う。令和5年度はそういったことが出来るといい。学校によってやり方が違うと思うが、学校側から地域の人のお手伝いなどの募集があり、応募するという流れになっている。学校教育課は関与しているのか。
- 事務局 学校教育課では、学校にお任せということではないが、基本的には各学校で年間の計画を立てているので学校ごとの事情で行われる。例えば、過去に交流をしていたということもあると思う。また、全学校が同じということもない。地域の需要によって継続されていた学校行事については、新型コロナウイルス感染症拡大前に戻すような動きの中で、検討をしているのではないかと理解している。
- 会長 校長会で話題にしてもらおうと、工夫してもらえるところもあるかもしれないので、温かい目をお願いしたい。
- 委員 委員になって1年目の出席だが、この資料を読み解くのに苦労している。私の地区では4年ぶりに敬老会があり、お世話をするスタッフも高齢者である。一関市の子育て支援策は、県内ではトップクラスですごいと思う。一方、1人暮らしの高齢者や子ども達が遠方において2人暮らしの高齢夫婦など、地域での出会いも少なくなっており、お節介は焼かないという雰囲気も地域で出てきている。高齢者支援策についても一関市が是非トップクラスになってほしいと思う。
- 会長 高齢者福祉の充実を図ればということだが、計画の中では、避難訓練をやり

ながら高齢者などの対象外の人も援助する。そういった事を、きっかけづくりとして捉えて、計画の段階でも考えていこうということはあったと思う。

事務局 避難訓練は、今までは動ける人たちが避難訓練をするというところがあり、集まれた人達でやるというのが主だった。この計画を作る上で、集まれない高齢の方や障がいの方を含めて、地域住民が一体となって避難訓練を実施したほうが良いのではないかとこのところがある。実際にそういった避難訓練をしている地域もあると聞いている。避難者の名簿だけではなく、実際の行動によって、地域のつながりの希薄さを緩和するため、こういったことを交流のきっかけとすることが出来ると思う。

会長 地区の避難訓練をするときに、施設の方も一緒に訓練をするなど、せっかく避難対象者の名簿があるので、災害を想定したときに、名簿に基づき間違いなく助けることが出来るかどうか検証するというのも方法の1つかと思う。コロナ禍で地域でも様々出来なくなってきたので、やれること、取り組みやすいものをしていくのがいいと思う。

委員 今年も、新型コロナウイルス感染症も収まりそうなので夏祭りや花火をやりようと思っていたが、家族が風邪にかかるように新型コロナウイルス感染症に感染し、やむを得ず自粛している。私も濃厚接触者となり、発熱し1週間くらいは規制がかかってしまった。様々な行事が3年目、4年目となるが出来ない状況にある。このような中、様々な立場で行事に携わるときに気になるのが、区長や自治会長の連絡先を市役所から聞こうとしたら教えられないと言われた。個人情報保護のためと思うが、区長の立場として使える情報もあるが、それ以外の立場で使っては駄目であり外部漏えいと言われてしまう。要支援者や高齢者などの情報も関係課が情報をもっていると思うのだが、可能な限り必要などころに出してやり、上手く効率が得られるような体制にしたらどうかと非常に危惧している。東山町では、助け合い募金のお金を地域で出そうという事があり、誰が困っているのかと立場上聞かれることがあった。関係課では給料のデータなどもあるのだから、そういったものを元にして情報を共有化してほしい。情報がないと社会福祉を考えましようと言っても難しい。ここを改革していく必要があると思う。

会長 県内のあるところでは、避難訓練をするために応援を必要とする方がいないかということ、細かい地区・班単位で1か月前に調べて、その情報は訓練をするときに聞いて教えてくれる。知りたい情報を本人から希望を出してもらい教える。毎年1回は実施している。東北は寒いから一冬経つと要支援者に変わりがあり、施設に入所したり、入院から退院後に要支援になったりと動きがあるので、毎年

調べる必要がある。そういった意味では、その地区では避難訓練時に自分たちで更新するので非常に意義がある。また、グループホームと施設が一緒になり取り組んでいるところもある。情報が無いということだが、参考にしてもらえればよい。

委員 3年目で初めて盆踊りを盛大に開催した。大会は無事に終わったが、その後に新型コロナウイルス感染症に感染した人が近隣から出た。最近は、また感染者が増えてきているようで、高齢者は気をつける必要があると思う。

学校の取組については、自身も1人暮らしのため学校の生徒から手紙が来て絵手紙で返信する。こういったやりとりは、とても楽しいので続けて欲しい。

委員 社会福祉事業を担う人材の確保や育成の実績として、貸付金の活用状況を聞きたい。

事務局 助産師、看護師などへの修学資金として、平成28年度から令和4年度までに貸付けをした方が39名であり、一関市に勤務している方が38名である。大概の方が市内に勤めており任期を終了した方もいる。離職し修学資金を返還した方もいる。

委員 介護職の状況も知りたい。

事務局 近年は、この貸付制度を使った介護職の申込みはない状況である。

会長 介護職は奨学金を使った独自の制度があるので、そちらを活用しているのではないか。介護職以外は修学資金を活用して、市内での就労に繋がっているようである。

10 その他 今年度予定している高校生を対象とした地域福祉ワークショップの概要案について、事務局から資料に基づき説明を行った。質疑等なし。

11 担当課 福祉部長寿社会課